

---

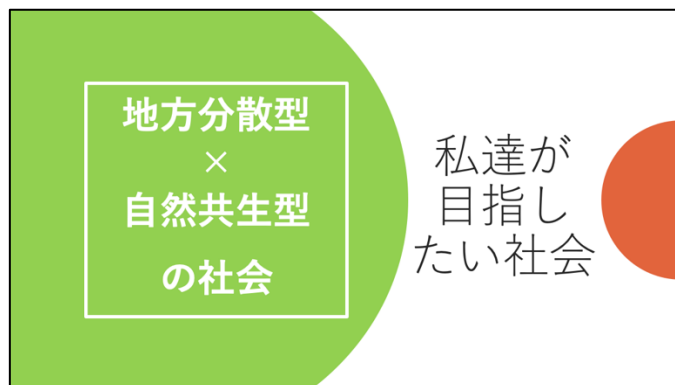
# コロナ後の経済社会の 再設計について

---

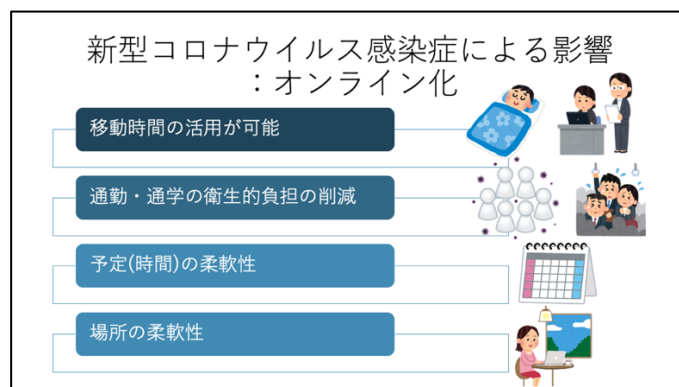
2020年6月25日

生物多様性  
あかものネットワーク

## 1. 目指したいアフターコロナ社会



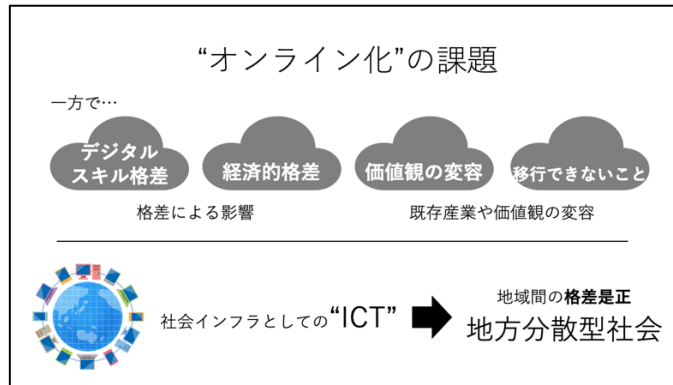
## 2. 背景：新型コロナウイルス感染症による学生生活への影響



新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な社会活動が「オンライン上」で実施されるようになり、私たちの学生生活も一変しました。様々な影響がある中で、それらは図のようなプラスの影響をもたらしました。

学生として感じたこと	学生として感じたこと
<p>b. オンライン化の利便性～学生団体活動の中で感じたこと～ ○普及啓発イベントや会議の実施で感じたオンライン化の利便性</p> <ul style="list-style-type: none"><li>参加者の数が増加、地域の幅が拡大</li><li>開催が容易になり、開催の機会が増加</li><li>印刷物、印刷費用や移動にかかる費用、燃料を削減</li></ul>	<p>b. オンライン化の利便性～学生団体活動の中で感じたこと～ 【生物多様性わかものネットワークの事例】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>4月～6月の期間にオンラインイベントを15回実施、合計200人弱が参加(北海道・関東・中部・近畿・中国・九州の6地方から参加者が集まる)</li><li>過去にオフラインで実施した、企画作りワークショップイベントもオンラインで開催が実現</li></ul> <p>・都市の学生と地域学生が平等な立場で参加できることを実感 ・オンラインのイベントの開催しやすさ、参加しやすさなどを実感</p>

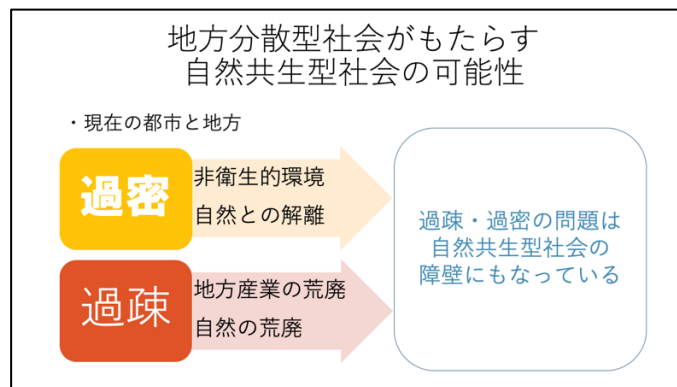
私たちの団体としても、「オンライン化」によって全国規模でのイベントの開催・参加の容易化や資料のデジタル化などによるプラスの影響を肌で感じました。ここで強く感じたのは、**都市の学生や地域の学生が「平等な立場」で、「容易な参加」が可能**という点です。



一方で、様々な課題も見えてきています。様々な「格差」の影響や、「既存の価値観」などの変容が求められます。しかし ICT 技術を社会のインフラとしての機能をこれまで以上に充実させれば、都市・地方の「格差」が大きく是正され、「地方分散型社会」実現の可能性が見えてくると考えます。

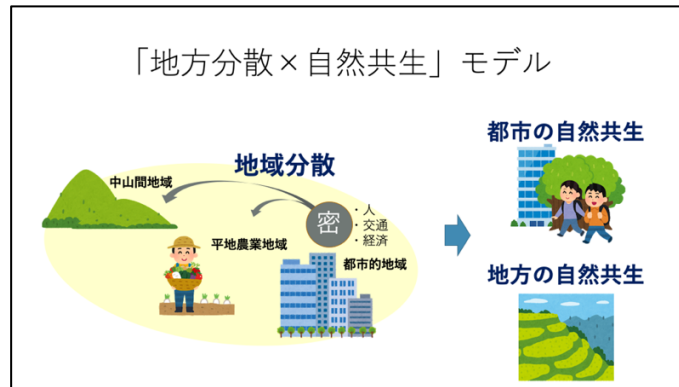
### 3. 目指したい地方分散型×自然共生型社会とは

#### a. 地方分散による都市の自然共生型社会と地方の自然共生型社会の概要



地方分散型社会の実現は過疎過密問題の解決に繋がるものです。まずはこれらの社会的問題を分析してみました。都市で見られる過密の大きな問題点は、非衛生的環境と言えます。今回の新型コロナウイルス感染症によって顕在化した問題です。またこの問題は身体的な衛生面のみならず、満員電車や人混みなど精神的な衛生面も含まれます。一方、過疎の問題点は、成り手不足による地方産業の後退や、耕作放棄などによる自然環境の荒廃などが挙げられます。

しかし、過疎過密の問題点は社会的側面に止まりません。過密によって、都市内の自然環境が著しく減少し、人間と自然との間で解離が起きてしまっています。これは人々の精神的負担増大にもつながります。自然が豊かな地方でも、管理不足によって自然環境の荒廃が進んでいます。このように、過疎過密の問題は、地方分散型社会の障壁であると同時に、自然共生型社会の障壁にもなっているのです。



地方分散型社会の実現のためには、ICT 技術を駆使し、中心地に移動しなくても良い仕組みを構築する必要があります。これまで大きな障壁となってきた「オンライン化」ですが、コロナの影響により一気に広まってきました。この流れを利用し地方分散型社会を実現させ、都市においてはグリーンインフラとしての機能を考慮しつつ、在来種で構成された都市緑地を増やします。高齢化、人手の減少等、管理不足により荒廃する自然が年々増えている地方においてはオンラインでの社会活動と、日本の伝統的知恵を生かした屋外での活動を両立させる新しい生活様式を成り立たせることで経済効果を上げる社会を築くのが良いと考えます。

#### b. 地方分散による都市の自然共生型社会の理想像

都市における自然共生型社会とは、誰もが日常的に自然と触れ合うことができ、人と自然が共に健全な状態の社会だと言えます。

現在、都市の緑地面積が減少傾向にあるという問題がありますが、人口が過密する都市部から周辺の地方へ、地方分散により都市の過密が緩和されると、空いた空間を創意工夫する余裕が生まれます。その空間を活用することで、都市の自然共生型の社会を実現できると考えます。

今後、**新型コロナウイルスの流行を契機に建築物も含め街全体の再設計**を行い、緑地を増やしていくことが必要だと考えます。都市緑化には、人々の保全意識の向上とウェルビーイングの2つの意義があります。ただ緑地面積を増やすだけでなく、緑地の生物多様性に配慮すること、より**人と自然が触れ合えるような環境**を作ることが重要です。

緑地を増やす際、**エコロジカルネットワーク**や、地域で保全すべき種等を意識し、**戦略的に緑地を設計することで魅力的な都市をつくる**ことができます。また、空き地や屋上などのスペースを利用して子供が生物について学べる**ビオトープの設計**や、**生物多様性に配慮した緑化を行うことを前提に設計された建築物**を増加させ、様々な生物と市民が触れ合えるようにすることが必要です。このように都市の緑化を行うことで、人も自然も健康な社会を作ることにつながると思います。

#### c. 地方分散による地方の自然共生型社会の理想像

地方では、少子高齢化や、人手の減少等、管理不足により荒廃する里山などの自然が増加しています。これらの問題は、地方分散型社会の実現によって改善できるのではないかと考えま

す。地方の農村部に分散した人が、オンラインでの社会活動を実施しつつその地域の産物を消費すれば、地産地消を促すこととなります。また、人が減少することで農作物への獣害被害が深刻化するという問題に対しても、その地域で生活する人が増えることで改善できるのではないかと考えます。さらには、地域で生活をするようになった人々が荒廃する自然の整備に関与することのできる仕組みができれば、地域の自然も持続可能な状態になると考えます。

#### 4. 今後コロナ危機を再発しないために

新型コロナウイルス感染症は、動物を媒介して発生したウイルスであるという説があります。新型コロナウイルス以外の感染症の例として、SARS や MERS などの感染症の起源は動物性病原体から発生したものです。これらの動物から発症とした感染症が広まる理由の一つとして、熱帯雨林などの森林伐採や野生動物の違法取引によって動物から人に感染したということが挙げられます。これは、生物多様性の問題にも深く関わっています。動物から発症する感染症によるコロナ危機のような被害を防ぐためには、生物多様性の保全が一つの鍵となります。

感染症を引き起こすウイルス拡散の原因に対処するために、日本においても生物多様性の保全を意識した生産と消費を行うことが大切です。熱帯雨林の森林を伐採することによって作られた製品、産物を使用しないように企業がサプライチェーンに配慮することや、市民が生物多様性に配慮して作られた商品を消費することも重要だと考えます。

#### 5. 環境省への提案

上記のような社会の実現を目指し、環境省に対して以下の提案を行います。

##### ● 都市の自然環境型社会について

- 「都市における緑とオープンスペース」の確保のための都市公園等の整備強化
- 国土交通省などと連携した、「都市の生物多様性指標」に基づいた各都市地域の取り組みに対する更なる支援（特にエコロジカルネットワークに関する視点の強化）
- 生物多様性の観点から配慮がなされた緑地、「グリーンビルディング」などによる都市緑化の推進、民間事業者などへの働きかけの強化

##### ● 地方の自然共生型社会について

- 地方創生に関心のある、都市に住む若者に対する活動の支援の強化
  - ☆ 「地域循環共生圏」の農村漁村地域での自立を目指し、若者のIターン・Uターンの増加など、地方のもつ豊かな自然環境を活用できる人口を増やすための施策を関係省庁と連携して強化

##### ● コロナ危機の再発防止について

- 生物多様性に配慮した企業のサプライチェーンを促進
- 市民に感染症と生物多様性の関係性について普及しつつ、生物多様性の保全に配慮した消費を促進

以上